

中部圏けんせつ未来懇話会 議事要旨

日 時 : 平成27年 3月16日 15:00~16:40
場 所 : 桜華会館 本館4階 松の間
参加者 : 48名 ※随行16名
(学校関係23名、建設業界10名、家庭(女性)4名、行政11名)

■建設業界の取り組み

- ・賃金、社会保険や労働時間、週休2日制の問題に関する提言活動を展開。
- ・技術の提供支援として、教育訓練センターを設置、充実させる。
- ・若年入職者の拡大にむけた各種PR活動、見学会等を展開。
『けんせつ小町』という名称の設定。
- ・高校生、大学生向けの就職の相談会等を開催。
- ・学生向けの現場見学会や研修会等を実施。
- ・愛知県はものづくり産業が多く、入職者の取り合い状態なので、見学会では好印象でも、入職に繋がっていない。
- ・女性入職促進事業として、現場従事的女性技術者を軸に、入職活動を展開。
- ・ラジオで、建設業の役割・やりがいを、わかりやすいクイズ形式で放送。
- ・専門業者にとって、高校生の新卒採用は、採用や育成に関するノウハウ・人材不足等から、ハードルが高いのが実情。
- ・愛知県では、勤務地固定、週休2日の製造業に人材が流れており、いわゆる建設3Kがすべての原因ではない。
- ・職人の出前授業を行っており、専門工事業の魅力を伝えているところ。
- ・職場環境を一步ずつ整えながら、魅力ある業界であること、発信していきたい。

■学校側から見た建設業界

- ・土木系の入職状況はかなり改善されている実感がある。学生には建設分野が無くてもならない職業だという認識がある。
- ・学生を集めるための広報としては、以前はハードイメージを打ち出したが、最近の学生は、街づくりや防災、減災計画など、ソフトイメージの方が受けがいい。
- ・企業の話では、長い間、採用を絞ったために組織が空洞化しており、中堅・若手社員がいない。一方で定年者数が増えたり、役所へのトラバークが増えてきており、対応に慌てているらしい。
- ・業界には、現場での勤務環境をぜひ改善していただきたい。未だ長時間残業、田舎の現場での飯場風の生活など、今の若者は耐えられない。

また、最大のハードルは勤務地の問題。転勤が耐えられないという。転勤があるというのが想定外だったという学生もたくさんいる。

- ・この地域は地元志向が非常に強く、また、製造業の選択肢が多いこともマイナス。地域総合職を設けると、学生受けが良いのでは。
- ・工事看板1つとっても、建設業のCMは下手。もっと上手に土木を宣伝して欲しい。
- ・中学生や保護者を巻き込んで、魅力発信の取り組みを展開。
- ・インターンシップでは、是非、達成感が得られるような体験をさせて欲しい。
- ・高校生が就職を決めるときのポイントは、3K(勤務地、給与、休日)。これら諸条件を並べると、製造業に比べてやはり厳しい。
- ・建設業は「地球の医者」であり、それに見合う給料が必要。やりがいに応じた見返りが得られるような業界にならないか。

■女性の視点からの意見

- ・女性の建設業入職とお聞きして、率直に勤務地が変わることが問題と今知った。
- ・子供を持っている親としては、勤務地が変わるといのは大変困難。
- ・作業員に外国人が多く、何となく取っつきにくい。
- ・やはり女性から見ると、建設業は男社会というイメージが非常に強い。
- ・担い手が少なくなってしまうという危機感はあるが、いざ自分の会社でとなると、中小企業では若い人や女性のために削ぐ時間や余裕が無いと言う回答が多い。
- ・ゼネコンのような大きな会社じゃないと無理と言う人が多いが、この業界は中小企業の占める割合が非常に多く、おのずと若い人も女性が増えない。
- ・一方で、中小企業でも会社を定年退職した保育士さんを雇って、会社に託児所を整備してくれたというケースも聞いている。
- ・地道にこういう企業を増やしていったら、良い風潮になれば、改善してゆくと思う。

■意見交換

- ・率直に、ニッカホッカ、重労働、お天気商売というイメージしかない。
- ・いろいろ取り組んでいただいているのは解ったが、十分な理解に繋がっていない。もっと丁寧に教えて欲しい。
- ・安心な社会を作ってゆくため、インフラの維持管理を担う土木は必須。
- ・岐阜大学では維持管理の技術者育成に取り組んでいる。
- ・仕事は、やりながら覚えるのがこの社会の通例であるが、採用後も、雇用者が計画的に人材を育成、フォローする仕組みが必要。

■座長まとめ

- ・産、官の想いと、学校や家庭の認識とのミスマッチがある。

- ・業界の魅力アップと、環境をよくすること、そしてその内容を広く国民に知ってもらうこと、以上の3本柱が取り組むべき視点。
- ・特に勤務時間、勤務地の問題は、職種的に解消しがたい問題なので、見合うだけの環境整備が必要。
- ・女性登用については、とにかく、抜擢と闇雲な面もある。
女性がどのようなシーンで活躍していただくかを、もう一度見直す必要がある。